

CO₂濃度が過去最高に 13年、海水の酸性化も懸念

ジュネーブ＝松尾一郎 2014年9月10日14時30分

世界気象機関（WMO）は9日、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）の2013年の地球の平均濃度（年平均）が1984年の統計開始以来、最高値の396ppmを記録したと発表した。CO₂濃度は増加傾向が続いており、前年からの増加幅は2.9ppmで、過去最大となった。

発表によると、産業革命前の1750年との比較で、2013年の大気中のCO₂の量は推計で約1.4倍。工業化にともなう化石燃料の使用増加などが要因だ。他の主要な温室効果ガスであるメタンは約2.5倍、亜酸化窒素も約1.2倍に達しているという。

また、大気中のCO₂の急増で海水の酸性化が進み、生態系への悪影響が懸念されている。

人間の活動で出たCO₂の4分の1は海に吸収されるとされ、海水の酸性化が進む。現在の海水の酸性度は過去3億年において最悪とみられ、今後もこの傾向は続く見込み。サンゴや藻類、プランクトンなどを始めとした生物に様々な悪影響を及ぼすと考えられる。（ジュネーブ＝松尾一郎）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © 2014 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.